

高等学校 第1学年 国語科学習指導案（細案）

指導日時:平成28年11月15日(火)第2校時
 指導学級:第1学年2組(男13名,女子23名)
 指導者:宮城県石巻高等学校教諭 伊藤都絵

1 単元名 [国語総合(現代文)] 小説(一)「羅生門」 (数研出版「国語総合 現代文編」)

2 単元の見積

- (1) 舞台設定や作者の性質などの情報を、主体的に読み取ろうとしている。 【関心・意欲・態度】
- (2) 比喩表現や情景描写、登場人物の行動から登場人物の心理を読み取ることで、小説のおもしろさを味わっている。 【読む能力】
- (3) エゴイズムについて知り、自分を含めた「人間」についての理解を深めている。 【知識・理解】

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は、高等学校学習指導要領国語の「2 内容 A 話すこと・聞くこと」の「(2) 言語活動 イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。」および「C 読むこと」の「(2) 言語活動 イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること」をふまえて設定した。ペアやグループで読み取ったり話し合ったりする活動を多く取り入れ、生徒一人一人の主体的に読む姿勢を引き出したい。

本作品には下人の心理の推移が主として描かれるが、ある心理にいたるきっかけ、その心理がどのような行動を引き起こすのかが読み取りやすく、人間の心理と行動の関係を知るのに適している。また情景描写や登場人物のしぐさにも人物の心理が表されているので、それを読み解いていく小説の面白さも味わうことができる。極限状況におけるエゴイズムの連鎖の読み取りを通して、自分を含めた「人間」というものについて考察を深めることができる好材料である。描写から読み取れる気味の悪さや、下人が闇に消えていく結末の余韻が強い印象となって残り、生徒に思索を促すだろう。

(2) 生徒の実態

国公立中堅大は難しくとも大学には進学したいという思いで本校を受験し、私立4年制大学への進学を目指す生徒が多い。素直で授業態度は真面目である。ただし指示されたことに関しては真面目に取り組むことができるが、自律的に物事に取り組むことは苦手で、スタディーサポートの結果を見ると家庭学習の習慣がほとんど身につけておらず、国語の授業においても自発的な読解に苦戦する。授業中に「わからない」と答えてしまう生徒もいるが、これまでの読書経験があまり多くなく語彙が少なかったり、集中力が身につけていなかったりして、「読み取り、考える」という行為の術を持っていないものと思われる。

(3) 指導について

下人の心理の動きや描写の工夫を一斉授業で確認しつつ、生徒が主体的に読み取る姿勢を引き出すため、ジグソー法を取り入れ、ペアおよびグループでの活動を多く設定する。第7・8時で行う「飢え死にか盗人かに対する下人の考え」「面砲」「空や楼内の明るさ」の読み取りや、エゴイズムの考察を帰着点として、それまでの授業において、一斉またはペア学習で下人が置かれている状況や心情の読み取りを行う。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
舞台設定や作者の性質などの情報を、主体的に読み取ろうとしている。	情景描写や下人の行動から、下人の心境・考えの変化を読み取っている。	エゴイズムについて知り、「人間」のありようを理解している。

学習活動における具体的評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・物語冒頭から得られる情報や作者の性質について、発言したり他の生徒の意見を聞いたりしつつ主体的に考え、読みを広げようとしている。	・本文の細かい描写から、下人の置かれている状況や、下人の心境を読み取っている。 ・本文全体を通して読み、面砲に対する下人の行動やその場の明るさが、下人の考えの推移を表しているという関連を読み取り、文にまとめている。	・極限状況におけるエゴイズムの連鎖に気付き、正義とエゴイズムを併せ持つ「人間」というものに理解を深めている。

5 単元の指導と評価の計画（全8時間）

	学習内容	学習活動における主な具体の評価規準	評価方法
第1時	<ul style="list-style-type: none"> 本文を通読する。 第1段落から、物語の舞台と登場人物の設定における「境界」という共通項を読み取り、物語冒頭からいろいろな情報を得られることを知る。（一斉） 	<ul style="list-style-type: none"> 物語冒頭から得られる情報を、発言したり他の生徒の意見を聞いたりしつつ主体的に読み取ろうとしている。（関心・意欲・態度） 	発表
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 第1段落第1・2・3節を読み、さびれた羅生門周辺の状況、人々の厳しい生活状況、暇を出された下人の極限状況を読み取る。（グループ活動） 	<ul style="list-style-type: none"> 同一表現の繰り返しや「蟋蟀」の動き、「Sentimentalisme」など細かい表現から、羅生門周辺のさびれた状況や、極限状況にある下人の心境を読み取っている。（読む能力） 	ワークシート
第3時	<ul style="list-style-type: none"> 第1段落3節を読み、「作者」の登場や「Sentimentalisme」の表記について考察する。 第1段落第4節を読み、「飢え死にか盗人か」についてのこのときの下人の考えを読み取り、書く。（個人ワーク） 	<ul style="list-style-type: none"> 作者の性質について、意見を述べたり他の生徒の意見を聞いたりしている。（関心・意欲・態度） 下人の心境について、他の生徒の意見を聞き自分の読み取りに生かし、文章としてまとめている。（読む能力） 	ワークシート
第4時	<ul style="list-style-type: none"> 第2段落第1節を読み、下人の描写のしかたと、下人の目に見えるものを読み取る。（ペア活動） 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の細かい描写を読み取って場面を想像し、自分の意見を述べたり、文章として表現できている。（読む能力） 	ワークシート
第5時	<ul style="list-style-type: none"> 第2段落第2節を読み、「六分の恐怖と四分の好奇心」と「憎悪」の内実を読み取り、書く。（個人ワーク） 	<ul style="list-style-type: none"> 下人の心境の変化にともなう「飢え死にか盗人か」についての考えの変化を読み取り、考えを書いている。（読む能力） 	ワークシート
第6時	<ul style="list-style-type: none"> 第3段落第1・2節を読み、弱まったり強まったりする「憎悪」の内実を読み取る。（一斉） 	<ul style="list-style-type: none"> 下人の心境の変化にともなう「飢え死にか盗人か」についての考えの変化を読み取っている。（読む能力） 	発表
第7時（本時）	<ul style="list-style-type: none"> 「飢え死にか盗人かに対する下人の考え」「面砲」「空や室内の明るさ」の描写が、本文冒頭から結末までどのように変化しているかを読み取り、発表する。（ペア・グループ活動） 	<ul style="list-style-type: none"> 本文全体を通して読み、面砲に対する下人の行動やその場の明るさが、下人の考えの推移を表しているという関連を読み取り、文にまとめている。（読む能力） 	ワークシート 発表
第8時	<ul style="list-style-type: none"> 老婆の論理が下人の決意を促したことを読み取ったうえで、下人の「嘲るような声」に着目しながら下人が老婆の論理に共感していないこと、なぜ共感できないのかを考察する。 極限状況においてエゴイズムが連鎖していることに気付き、正義とエゴイズムを併せ持つ「人間」というものについて考えを深める。（一斉） 	<ul style="list-style-type: none"> 極限状況におけるエゴイズムの連鎖に気付き、正義とエゴイズムを併せ持つ「人間」というものに理解を深めている。（知識・理解） 	発表・観察

6 本時の指導

(1) 題材名 「羅生門」

(2) 本時のねらい

「面砲」と「空や室内の明るさ」の描写が「飢え死にか盗人かについての下人の考え」の変化や決意を示していることを読み取らせ、小説における表現の工夫のおもしろさを味わわせる。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	具体的評価規準	Aとする具体的な姿
読む能力	本文全体を通して読み、面砲に対する下人の行動やその場の明るさが、下人の考えの推移を表していることを読み取り、文にまとめている。	本文全体を通して読み、空や楼内の明るさの変化が、正義感を燃やしつつも悪の方向へ推移する下人の感情を表すことと、面砲に対する下人の行動が、下人の迷いと決断を表すことを読み取り、文にまとめている。

(4) 学習指導上の工夫

ワークシートを初めのペア活動で一人1枚、次のグループ活動で一人1枚ずつ用意し、グループ活動用のワークシートはペア活動から持ち寄ったそれぞれの内容をすべて書き込めるものを作成する。

(5) 準備物

教科書・ノート・ワークシート・国語辞典

(6) 本時の展開

段階	学習活動と主な発問(●予想される生徒の反応)	形態	指導上の留意点	評価
導入 (2分)	<p>1 第3段落第3節・第4段落を読み、下人が盗人になることを決意したこと、「面砲」の描写が繰り返されていること、下人の行く先が「黒洞々たる夜」と表現されていることを確認する。</p> <p>2 本時の学習課題を知る</p> <p>「飢え死にか盗人かに対する下人の考え」「面砲」「空や楼内の明るさ」の描写が、本文冒頭から結末までどのように変化しているかを読み取る。</p>	<p>一斉</p> <p>一斉</p>		
展開 (10分) (20分)	<p>3 ペアをつくり、本文全体から、「面砲」「空や楼内の明るさ」「下人の飢え死にか盗人かに対する考え」についての描写を探し、考察する。(ワークシート)</p> <p>●描写が探せない、答えが課題に合っているかわからない等。</p> <p>4 新しく3人のグループに組み直し、ペア活動で考察した内容を持ち寄って、新たなワークシートに書き込んで三つの事項の関連を考える。</p> <p>(主な発問) ペア活動のワークシート(2)の内容を、新しいワークシートにそれぞれ書き込んで、3つの関連を考えなさい。</p> <p>●「面砲」の象徴するものが「年齢・生活習慣」にとどまっている、「明るさ」の変化が表すものが「下人の感情の起伏」という大づかみな内容にとどまっている等。</p>	<p>ペア</p> <p>グループ</p>	<p>机間巡視をしながら悩んでいるペアに手助けを行う。</p> <p>意見が出せないでいるグループには、ワークシートに書き込んだ3つの事項がどう対応しているかに注目させ、考察が進むように促す。</p> <p>意見がまとまってきたグループに、発表用シートをグループに1枚ずつ配布する。 意見の根拠を明確にし、根拠も併せて言えるように、そしてグループ内の誰もが発表できるように準備させる。</p> <p>発表者は全員に聞こえるように話すように、聞く人は発表者を向いて聞くように留意する。</p>	<p>【読む能力】 本文全体を通して読み、面砲に対する下人の行動やその場の明るさが、下人の考えの推移を表していることを読み取り、文にまとめている。</p>
(15分)	<p>5 グループで意見をまとめ、発表用シートに書き込む。意見の根拠を明確にし、根拠も併せて言えるように発表に備える。</p> <p>6 一つの質問に対し各グループ代表者が順番に意見を発表する。これを三つの質問すべてで行う。</p>			
まとめ (3分)	<p>7 ワークシートにまとめと授業の感想を書く。</p> <p>8 下人に盗人になる決意をさせた老婆の話に留意し、その内容を次回の授業で読むという告知を聞く。</p>	一斉	他のグループの意見を聞いて考えたことを取り入れて、自分の意見をまとめるように指示する。	

(7) ワークシート (別添)

【参考文献】 評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(高等学校)-評価規準、評価方法等の研究開発(報告)-
 <平成24年3月> <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouairyuu.html>